

学院部「宗教要論」長崎陽子

私たちは、「宗教」という言葉を日常さかんに使っていますが、「宗教って何？」とあらためて考えてみると、実に多様な見方や考え方があり、その答は簡単に見つかりません。

それにもかかわらず、例えば考古学の方法で人類の歴史をさかのぼってみると、すでに文化の曙と共に「宗教」とか「宗教的」といった言葉で表現するしかない人間の営みの存在が確認できますし、古代文明の遺跡からもその時代の人々の心を支えた宗教の遺物が豊富に発見されています。そうすると、そこには何か漠然としながらも共通した「宗教」の概念はあることになりませんが、それは何でしょう？科学が生命の操作にまでかかわる現代ですが、現に世界には実にさまざまな宗教があり、現代人も社会生活のあらゆる場面で多様な宗教行事にかかわっています。この講義では、こうした人間の心や行動に深くかかわっている「宗教」の多様な状況とその意味を、宗教学の視点から学んでゆきたいと思います。